

ラフテレーン・オルテレーンクレーン用タイヤの日常点検について

ラフテレーン・オルテレーンクレーン用タイヤの異常磨耗、傷みや劣化は思わぬ事故の原因になる事があります。

異常磨耗、傷み、劣化は、日常のタイヤ点検を徹底することで未然に防ぐことができます。

以下にタイヤメーカー発行のパンフレット[ラフテレーンクレーン用タイヤ 日常点検徹底のお願い]をご紹介します。タイヤ損傷のメカニズムをご理解いただき日常点検にお役立てください。



ラフテレーンクレーン用タイヤ 日常点検 徹底のお願い



ラフテレーンクレーン用タイヤでは、一部のお客様にて長期使用に伴う経年劣化と使用条件との複合要因による損傷が発生しています。

この損傷は、日常タイヤ点検の徹底により吹き抜けに至る前に発見することができます。

尚、タイヤの点検については、道路運送車両法に定められていますが、本資料では、日常点検の方法・点検のポイントをまとめました。お客様におかれましては、内容をご確認頂き、日常のタイヤ点検を励行していただきますようお願い申し上げます。

**長期使用に伴う経年劣化と使用条件に起因した損傷。
初期兆候*を見逃すと吹き抜けが発生します。(*3頁を参照ください)**

損傷タイヤの例



ラフテレーンクレーン用

以下の項目について、出発前の点検を必ず実施してください。

空気圧

タイヤが冷えた状態で、正確なゲージを使用して空気圧を測定。右表の適正空気圧に合わせて調整してください。

サイズ	適正空気圧
325/95R24	900kPa
385/95R25	900kPa
445/95R25	900kPa
505/95R25	800kPa



タイヤの空気圧を適正に保つには
定期的点検・補充が必要

極端な偏摩耗

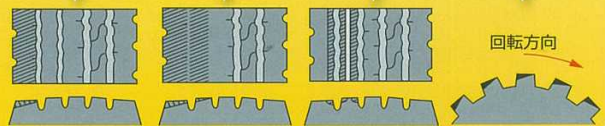
以下のような極端な偏摩耗は、操縦安定性不良や振動の原因になるばかりでなく、スチールコードの露出により、吹き抜けなどの故障につながる危険があります。偏摩耗の発生を防止するため、定期的なローテーションや空気圧管理を行い、過荷重を避けてください。

肩落ち

片減り

リバーウェア

ヒール&トゥ



異物・石噛み・傷

トレッド部やサイド部への外傷でコードに到達するものは大変危険です。(溝への石や異物の噛み込みはとり除いてください)これらの異常を発見した場合にはすぐにタイヤ販売店にご相談ください。



溝深さ

新品時の溝深さの15%が使用限度*。
(残り溝約3~4mmが使用限度の目安)
特に車輻重量の重いラフテレーンクレーンは安全性確保のために、早めの交換をお願いします。



* (社)日本建設機械化協会「建設車両用タイヤの選定・使用・整備基準」に基づく

タイヤ 日常点検のポイント

タイヤサイドの変形に注意してください。

次のような膨れなどの
変形のあるタイヤは、
吹き抜ける可能性があります。
即時交換をお願いします。

点検は表・裏両面を!!

このような変形は、装着タイヤの内側にも発生します。アウトリガーでタイヤを浮かせ、表・裏両面の点検をお願いします。



※これらのタイヤを発見した場合は、すぐにタイヤ販売店にご相談ください。

この兆候を見逃さないでください!!

タイヤ
サイド部の
膨れ



見逃すと

吹き
抜け



タイヤ
サイド部の
膨れ



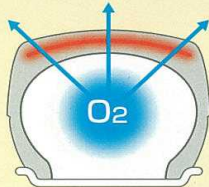
見逃すと

吹き
抜け



ラフテレーンクレーン用タイヤの劣化損傷について

酸素劣化



タイヤ内の酸素は走行時の発熱に伴い、スチールコード周りのゴムを劣化させます。さらにスチールコードの錆の原因ともなります。



過度のタイヤの歪

タイヤの定格を超えた過荷重や低空気圧での使用は偏摩耗を発生させ、タイヤの歪を増加させます。荷重の大きいラフテレーンクレーンでは、偏摩耗が発生すると、さらに歪を増加させ、損傷の原因となります。

損傷発生

劣化したゴムが破壊され膨れなどの変形や吹き抜けが発生します。

交換の目安

タイヤの経年劣化とタイヤの歪を考慮し、次の条件に合致する場合、溝が残っていても交換時期ですので、早めの交換をお願いします。

ショルダー部が肩落ち摩耗し、色合いの違うベースゴムが露出しているタイヤ

なお、上記以外でも以下の条件に当てはまるタイヤは交換時期が来ているタイヤですので、交換をお勧めします。

- 周上一箇所でも残り溝が3～4mm以下になったタイヤ
 - コードに達した外傷、ゴム割れのあるタイヤ
 - 極端に偏摩耗したタイヤ及び、コード層が露出したタイヤ
- 使用開始後、5年以上経過したタイヤについては、より徹底した点検をお願いします。



ホイールについて

変形したロックリングは交換してください。

タイヤのパンク(又は吹き抜け)などにより空気が抜けた場合に、変形したロックリングが外れる事例が報告されています。変形したロックリングは必ず交換してください。



株式会社フリテストン

タイヤ技術サービス部
東京都中央区京橋1丁目10番1号 〒104-8340
電話 (03) 3563-6834

2008年9月制作 (WS)